

今日の説教のポイント <マタイによる福音書7章1~6節>

「人を裁くな」「だったら、裁判はどうなるの?」。時々、聞かれる疑問です。イエス様のこの教えを二つの視点から考えます。

①私に語りかけ、私の心の持ち様を変える大切な教えとして。

テレビの「心の時代」で、サラリーマン時代に信仰を持ち、自分の家で礼拝を40年されて来た方を取り上げていました。信仰を持つきっかけになった箇所の一つにこの箇所を挙げておられました。仕事での人間関係に悩む中でこの言葉に出会い、「相手ではなく、自分の方に問題があるのでは、と思うようになった」「その後、この教えが仕事の中でも生きて来た」と言われていました。**「あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中にある丸太に気づかないのか」**(3) 他人の過ちに関してはうるさいのに、自分の過ちは見逃す私たち。このことを深く覚えて生き出す時に、人間関係も良い方向に変わって行くのです。裁く側の視点だけでなく、裁かれる側の視点が入って来るからです。これは、真の裁き主である神様の存在を信じて生きる時に初めて覚えられます。しかも、裁かれて当然の私たちを、裁かず生かそうとして下さるイエス・キリストの神様を知って生きる時に、初めて他者に対して心大らかに生きて行ける者となるのです。

②「一切裁いてはならない」というのではなく、むしろ、「裁けないことを知った者として、正しく裁く」ことが求められている教え。

「人を裁くな」という教えは、確かに、①で述べたように、私たち自身が問われる教えであり、人に向かう際の心の有り様を大きく変えてくれる教えです。しかし同時に、それは裁判を否定するような教えではありません。子どもがどんなに悪いことをやっても甘やかし続ける親は、本当に子どもを愛しているとは言えません。神様は、罪は罪として過ちを認めさせ、そこから更生して行ける道を用意するような裁判を願っておられます。また、神様が、強き者に偏らず弱き者を守る裁判を求められる姿は、旧約聖書の中の預言書に多数見られるところです。ですから、そういう裁判が必要であること、そして、人も自分も罪を犯す存在であり、しかも神様によって赦され生かされていることを知っている者が裁判をなすべきであることを教える教え、と言えるでしょう。